

令和4年度 第2回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：令和5年3月29日（水） 14：00～16：00
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室
- 3 出席者：委 員) 渡邊由紀子、中島佳江、松下誠、西木友世、上村篤子、豊澤絵里奈、西聡子  
 矢崎美香、白根恵子、脇山真治、矢島啓子、安永行政（計12名）  
 職 員) 立石総館長、青木館長、中村運営課長、中村図書サービス課長、  
 高巢文学・映像課長 他  
 傍聴人) 2名

4 議事録

- 1. 開 会  
 総館長挨拶
- 2. 議 事  
 議題

委員	<p>&lt;令和5年度事業計画について&gt;</p> <p>(3) 貸出・返却サービスの充実について、返却拠点は少しずつ増えているが、貸出拠点は増えていないのではないかと。</p> <p>貸出拠点を今後充実させる計画はあるのか。</p>
事務局	<p>返却拠点は順次充実してきた。貸出拠点については、分館の増設とともに増やしているが、まだまだ少ないとの指摘は承知している。</p> <p>貸出サービスの充実という観点では、団体貸出の活用を含めて、身近な場所での図書の貸出の拡充を進めているところ。</p> <p>貸出拠点を設けるには、図書資料の物流等の課題も多く、具体的な検討が進んでいない。公共施設の活用も視野に入れ、継続した検討課題としていく。</p>
委員	<p>総合図書館も県立図書館も書庫が手狭になってきているが、最も効果的な解決策は書庫の増設と考える。</p> <p>それが困難であれば、除籍・廃棄の手法が取られると思う。その際には県立図書館の蔵書状況等も鑑み、慎重な廃棄を希望する。</p> <p>逐次刊行物については、分担保存という取り決めがあったが、今も有効であれば、参考にしたうえで慎重な廃棄を望む。</p>
事務局	<p>多くの図書館で、収蔵能力については大きな課題となっている。</p> <p>県内の他の図書館と雑誌などの分担保存を行っているが、総合図書館の閉架書庫も限界に近づいている。</p> <p>令和3年度に除籍要綱を整備し、適切な保存・除籍に臨んでいるところであり、保存期間については、利用状況を見ながら協議・決定していく。</p> <p>除籍を進めなければ、新書の配架を圧迫することにも繋がるため、適切に進めていきたい。</p>

委員	<p>関連して質問する。総合図書館も分館も含めて、分担の指針等を打ち出していけばよいのではないか。</p> <p>分館ごとの収集方針を明示化することで、利用者が書籍を探すにあたり有効な基準になると考える。</p>
事務局	<p>分館については、それぞれの地域性を活かして選書を行っているが、規模が小さく収蔵能力も小さいことから、排架して一定期間を過ぎたもので、必要なものは本館で保存するようにしている。</p> <p>雑誌については、ホームページにおいて所蔵している図書館を一覧にして掲載しているところであり、更なる周知を図りたい。</p>
委員	<p>私は、福岡おはなしの会の代表をしている。</p> <p>今年の4月からお願いしていたおはなしの家でのお話会再開の連絡を受け感謝している。</p> <p>再開にあたり、リハーサルと本番で「おはなしの家」を使用した時の環境が乖離していることに気付いた。</p> <p>おはなしの家を利用された方は承知していると思うが、かなり暗い状態である。</p> <p>以前、照明を改善されていたが、20年以上利用している中で「見えにくい」という意見があり、暗いことに気付いた。このくらいの照明であれば見えるが、おはなしの家では見えにくい。</p> <p>せっかくいいものを選んで実施しても、あの部屋では見えにくい。</p> <p>この機会に、照明を増やす等の改善をお願いする。</p> <p>それから、赤ちゃん向けのお話会について、まだ未定ではあるが実施する方向で検討しているところだが、当会の会員から「段差があるため、0歳児にとって大丈夫か」という意見があっている。</p> <p>また、日曜日お話会など通常は小学生向けの時間帯で開催を検討されているが、その時間帯は赤ちゃんはお昼寝中である。コロナ以前は、午前中に段差の無いところで実施していた。</p> <p>赤ちゃん向けのお話会については、場所と時間帯を検討いただきたい。</p>
事務局	<p>これらのご意見については、別途相談させていただきたい。</p>
委員	<p>3ページ目の(6)読書普及活動の中に、大人向けイベントというものがあるが、なかなか素晴らしいものと感じている。</p> <p>実施時期は各館で検討するということだが、総合図書館だけでなく各地区の図書館も踏まえてと思うが、現実的な問題として東図書館・早良南図書館を除いた各図書館の閉館時間が18時であるが、ターゲットとなる大人が平日に参加できる時間と考えているのか。</p>

	<p>土日であれば家庭を優先される方も多と思われる。土日には開催しないことを考えているなど、大人向けのイベントの方向性を伺いたい。</p> <p>それから5ページ、(8)地域読書活動への支援という事業の中で、スタンバード文庫の活用があるが、スタンバードの着ぐるみはないのか。</p> <p>一緒に活動するときに着ぐるみを着ていけば子供たちが喜ぶと考える。そういうものがあれば、一緒に活動することで子供たちが寄ってくると思う。</p> <p>その中で、いろんなお話をするという発想があってもよいと思う。</p> <p>9ページ、定例文学講座「もちはま草紙」の講師について、文学者に限らず広く様々な分野で活躍している方と書かれているが、具体的にどのような考えで人選したかを教えてほしい。</p> <p>最後に、昨年井上考治さんの写真展のパネルが掲示してあったが、ガラスがあって写真があるという展示方法が、もう一つ時代に即していないと感じた。</p> <p>もう少し展示の仕方を工夫していただきたい。</p>
事務局	<p>まず1点目だが、イベントについては夜の開催を含め、ターゲットに合わせて時間を工夫しながら推進しており、土日の開催も含め引き続き効果的な手法を模索したい。</p> <p>2点目のスタンバードの着ぐるみについては確認する。キャラクターのイラストを活用した広報も考えたい。</p> <p>また、公民館だよりを活用した広報も展開していきたい。</p> <p>最後に、定例文学講座の講師の人選については、文学者に限らず様々な分野で活躍している方々であるが、まだ具体的な令和5年度実施分の人選はできていない。</p> <p>これまでの例を見ると、作家本人の講演はもちろん人気であるが、それ以外にも、大学の研究者、作家の家族、作中登場人物の評論者として弁護士、その他、映像作家の方にもお願いした。</p> <p>また、展示の手法についてだが、ご指摘のとおりと認識している。展示物を引き立てようとする装飾費用もかかることや、我々の展示技術の問題もあり、なかなか短い期間で習得できるものではないため、今後も研究しながら進めたい。</p>
委員	<p>公民館から質問と要望がある。</p> <p>まず質問だが、3ページのブックスタートの広報とあるが、どのように広報しているかを伺いたい。</p> <p>次に要望だが、スタンバード文庫が入り乳幼児の母親が利用されることも多くなった。そこで乳幼児の本の貸し出しをお願いしたい。大人向けの本は年間2回ほど公民館への貸し出しがあるが、乳幼児の本もその中に含めてほしい旨の要望がある。</p> <p>また、スタンバード文庫も増やしてほしい旨の要望もある。</p>

事務局	<p>ブックスタート事業の広報だが、このようなチラシ（提示）を作成し、お配りしている。チラシには赤ちゃん向け絵本の読み聞かせ方法を紹介した動画のQRコードも掲載している。</p>
委員	<p>令和5年度の事業計画を立てるときには、令和4年度の実績の反省だとか課題とか、何かよりどころがあって、5年度の計画を立てたと思うが、私たちがその4年度の成果を見ることができるのが夏以降だ。計画のよりどころが分からない中で私が発言しても意見に説得力がないかもしれないがご容赦いただきたい。</p> <p>1ページの1（1）資料収集の充実において、内容が昨年と同じ文言である。今年度予算は減額である。しかも収集費も減額である。</p> <p>同じ文言で減額予算に対応する作業となると相当限られると思うが、図書の充実どころか、去年の実績を間違いなく下回るだろうと。</p> <p>私はビジョンの評価委員ではないが、この文言で評価結果が出たときに、C評価になることを恐れている。</p> <p>従って予算が削減されたことはしかたがない。その中で、資料の収集をどうするかというような内容にしないといけないのではないかと。</p> <p>意図があって、同じ文言にされてるんだと思うが、少ない予算でやるべき内容ではないという気がした。</p> <p>5ページの（9）電子図書館の利用について市内に通勤通学してる場合に限るとのことだが、もうちょっと拡張していいのではないかと思う。</p> <p>7～8ページ、公文書・古文書の整理・保存にあたって、マイクロフィルムで撮影を行うとのこと、これは非常にいいと思う。</p> <p>決定的にまだマイクロフィルムが有利であるから、100年単位で保存できるのでこれは問題ない。</p> <p>ところが閲覧に関してもマイクロフィルムにより閲覧に供すると、市民来場者サービスからすると、閲覧についてはデジタルという方向に持っていけばいいと思う。</p>
事務局	<p>図書購入費の予算について、昨年度と比べると減額となっている。それを踏まえた上で、図書の収集には寄贈も含めて頑張らないといけない。また、利用者の方からリクエストも上がってくるので、できるだけニーズに応える選書をしていくなど、厳しい条件の中でも資料充実を図っていきたいと考え同じ文言とさせていただいている。</p>
委員	<p>広報活動について、AIチャットボットの導入についてお尋ねする。</p> <p>県立図書館では導入されているが、簡単な質問やレファレンスについてはチャットボットを活用することにより、人的な労力の低減が期待できると考える。</p> <p>AIチャットボットで質問すると、AIに蓄積された回答が出てくる。</p> <p>県立図書館も導入されているし、福岡県・福岡市の行政のホームページの方でも導</p>

事務局	<p>入されていたため、総合図書館で導入されていないのには、何か理由があるのか。</p> <p>今の質問はレファレンスでの活用についてか。</p>
委員	<p>レファレンスというより、ちょっとしたことを聞きたい場合に、窓口までいかなくても対応が可能となる。</p> <p>例えば「図書館は今日何時まで開いていますか。閉館ですか」とか、「何冊借りれますか。」とかいうような簡単なことをAIが答えてくれるというもの。</p> <p>(AIでの回答が困難な) 質問になると、対人での対応に変わるという、そういう機能がついている。</p> <p>それを導入することにより、人的な業務量が軽減される思う。</p> <p>県域の中でも福岡県や市のホームページでも導入されており、県立図書館が県下で一番早く、2020年から導入されている。</p> <p>それらに倣って、総合図書館は大規模なため、導入を検討されてはいかがか。</p>
事務局	<p>チャットボットシステムについては、システム改修を審査する市の委員会への提案を行った。</p> <p>その時は、導入する際の費用対効果やその効果について明確に提示することが難しく、導入に至らなかった経緯がある。</p> <p>今後、図書館におけるチャットボット導入に関する研究を深め、財政部門及びDX推進部局への提言に努めたい。</p> <p>ただ、市全体の財政事情や政策的な優先順位もあり早急な対応が困難であることも理解していただきたい。</p> <p>県立図書館の方でも実績あるということであり、我々も情報を収集つつ、メリット・デメリットを考察し、費用対効果や人的措置の展望なども研究し検討を進めたい。</p>
委員	<p>12ページの指定管理者制度について、評価委員会のような組織があると思うが、3つの図書館について運營業務委託されているが、評価について市民はどのようなレベルで関わってるのかを伺いたい。</p> <p>利用してるのは福岡市民であるので、当該指定管理者に対して市民がどのように評価しているのかをどう把握しているのか。</p> <p>また、福岡市総合図書館と福岡市美術館ほど両者が近くにあるところはそうそう無いと思う。美術館には福岡市総合図書館の本も置いてあるが、美術館と連携して福岡市ということアピールしていくような展示なり、イベントなりすれば、福岡市には力があるところが見せていけると考える。</p> <p>とりわけ、福岡市美術館の今の集客力は大きいので、ぜひそこを検討してほしい。</p> <p>今年度は世界水泳もあり、また、様々な四季折々のイベントもあり、今だと桜もあ</p>

<p>事務局</p>	<p>るのでぜひ検討してほしい。</p> <p>本館では指定管理者は建物の施設管理を行っているため、分館についてお答えさせていただきます。</p> <p>分館では、東図書館と早良南図書館が指定管理者となっている。</p> <p>こちらについては外部委員を構成員とする評価委員会があり、そこで評価を受けている。</p> <p>また、必ず指定管理者で、毎年、利用者のアンケート調査を行っており、それらの結果を踏まえたうえで市側の評価を行っている。</p> <p>アンケートの結果、利用者の満足度は大きな評価ポイントとなっている。</p> <p>評価の結果については、例年第1回運営審議会で報告している。</p> <p>イベント等での美術館との連携については、美術館の担当者との協議で広報活動の中で連携すること、また、美術館の展示に合わせた、図書館での本の展示でバックアップすることも検討している。</p> <p>また、ご承知かもしれないが、福岡市では毎年5月にミュージアムウィークというイベントがある。市内、県内の連携する美術館や博物館等で入館料の割引などがあるが、その中に総合図書館も加わっているので、このようなところからも少しずつ拡大していきたい。</p> <p>また、福岡市総合図書館をもっとアピールするような取り組みの一つとしてご紹介したいことがある。福岡市総合図書館では、地域の貴重な資料を多数収蔵しているが、それをテレビ局や新聞に貸し出すことがある。その時は必ず、「提供・福岡市総合図書館」というクレジットが入るので、是非その辺りも注目していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今後、日本語を母語としない方々が増えてくることが想定されるが、そういう方々に対しての取り組みについて具体的な内容を伺いたい。</p> <p>外国から日本に初めて来たときに、日本語を母語としてない方々は苦労していると思う。いろんな国語があるからすべての言語での対応は難しいとは思いますが、やさしい日本語を使った表示があればいいのではないかと。</p> <p>それから利用案内においても、そういう方がわかりやすい工夫をしておいたほうがよろしい。</p> <p>具体的な実例があったら知りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>アジアの方々をはじめ英語圏の方も含めて来館されている。そういうことを意識し、蔵書自体は国際部門などもあり、こども図書館では、世界の絵本コーナーにさまざまな言語の絵本をそろえている。</p> <p>また、来館者で日本語が難しい方に対応するため、国際部門には、英語・中国語・韓国語で応対できる職員もいる。</p> <p>やさしい日本語に関しては、確かに市役所内でも周知・指導があっているが、現状、</p>

<p>委員</p>	<p>総合図書館ではまだ十分に対応できているとはいえない。</p> <p>また、総合図書館では図書資料の他に映像資料を収蔵しており、約3000本のうちの1000本近くがアジア映画である。テーマを決めて上映しているが、国ごとの特集の場合は福岡市内の領事館等にも案内し、市内に居住の各国の方々に来てもらう取り組みを行っている。</p> <p>13ページ(9)財源確保に係る事業について伺う。</p> <p>先ほど予算の話も出たが、こういう時代の中、なかなか予算を確保することは難しいだろうとは思っている。</p> <p>例えば図書館運営に当たる寄付制度というのを創設することは可能か。</p> <p>確かにこれはふくおか応援寄付制度による寄付金によりと書いているが、これは、結局ふるさと納税である。</p> <p>しかも、ふるさと納税に関して言うと福岡市民は対象外と思う。</p> <p>世界的に見ると例えば、フレンドホームライブラリーみたいに、例えば図書館を支える人々の寄付制度を作っているところもある。</p> <p>可能なことかどうか分からないが、例えば寄付をされた方には、駐車場の時間を延長できる等の付加価値を設けるといったことや寄付をされた会社・事業者・個人については施設内に名称を掲出するといったことも可能ではないか。</p> <p>財源確保という意味では、こういったことを考えていくことも大きなポイントと考える。</p> <p>また、先ほども出たが、アジア映画を収集しているところは日本でも少ないので、映像部門の事業はとても貴重と考える。</p> <p>総合図書館の映像部門の事業としては、年間にどれくらい購入しているのか。</p> <p>予算内でいうと映像資料収集経費を使って購入すると思われるが、この予算額で購入できるとは思えないと思う。何本くらい購入できているのか。</p> <p>図書館が実施する一つひとつの事業は大変で素晴らしいと思うが、横の連携が見えてこないところがある。今後、アクションプランへこのあたりの考え方を取り入れてほしい。</p> <p>いろんな問題に対し、図書館が情報提供できるのではないか。教育委員会の他の部署と情報交換をしながら、図書館ができることがあるのではないか。そういう気がする。単に本の集積場所ということではなく、今後、総合図書館は情報のステーションとして、生きていくしかないのではないか。</p> <p>本だけではなく、いわば福岡の情報をここでまとめ、福岡市を下支えする役割という、その方向を我々は考えていかなければならない。</p> <p>そういうことを考えたときに、先ほど最初に戻るが、例えば図書館を支える財政面でいろんなことあるだろうが、もっと工夫する余地はあると考える。</p>
-----------	--

<p>事務局</p>	<p>質問があった応援寄付について、ふるさと納税は、福岡市が推進する様々な事業の中から納税者が選択し、寄付を行うことが可能である。</p> <p>今年度、広報等に力を入れた関係で、僅かながらではあるが増額になっており、引き続き広報には力を入れていきたいと考えている。</p> <p>また、財政担当との協議の中で図書館独自の寄付制度が設けられるか考えたい。</p> <p>横の連携については、委員からもらった意見を鑑み、今後検討を重ねたい。</p> <p>映像の収集経費については、3年ほど前から、映像の収集に際し購入はしないということになっており、現在、映像の収集は寄贈だけとなっている。令和3年度だと7本、令和4年度だと、1月末時点で44本の寄贈を受けている。</p> <p>また、寄贈を受けても公開には字幕を付けることが必要な場合などあるが、そうした上映に関する経費としても金銭を寄付される方もあり、日本語字幕入りの作品にクレジットを入れ寄付者の気持ちに応える例もあった。ふるさと応援寄付制度以外でも、部門によってはそういう形の寄付も可能となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>同じく13ページの財源確保について聞きたい。</p> <p>寄付金だが、ホームページによると絵本や紙芝居の児童図書を始めとした図書資料及びアジア映画や福岡に関する映画の収集保存に活用するとされている。</p> <p>寄付する場合目的意識を持って寄付したいと思う方が多いのではないかと。しかし、例えば本当は子供の絵本を購入して欲しいと思いつつ、実際には映画の購入に充てられた、のような場合に納得がいかない方も出てくるのではないかと。</p> <p>やはり私もそうだが、寄付しようといったときには、これに使って欲しいんだという思いがあるはずだ。</p> <p>つまり、もう少し寄付の対象を細分化したらいかかがかと考える。</p> <p>また、15ページの研究活動・研究紀要について、ホームページを見ると1年に1回発行してあり、目次は閲覧できるが本文が読めない。</p> <p>執筆者の方の了解が前提だが、ぜひ本文も載せたらいかかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ふくおか応援寄付の寄付先については、現状、財政部局からは1項目しか認められていない状況である。</p> <p>細分化の可能性について確認していきたい。実際に、実現可能か否かは明言できないが、意向を踏まえ努力したいと思う。</p> <p>また、研究紀要の目次だけではなく、本文の電子版をインターネットを通じて見せたらどうかということだが、指摘の通り、執筆者の了解が出たものから、今後、取り組んでいくことになると考えている。現在のところ、昨年度紀要の益富資料に関する論文のみインターネットに全文掲載している状況である。</p>



<p>委員</p>	<p>学校現場の方で私の知ってる範囲内だが、デジタルが生活の中はかなり入ってきて子供たちが紙の本に接する機会が減ってきている気がする。</p> <p>小学校では授業で図書館を使う活動を実施しているのに対し、中学校では朝読書を一時はたくさんやってたが、働き方改革などで、その時間を取ることがほとんどできなくなった。</p> <p>それから、昼休みの時間の短縮をやってる学校もあり、子供たちがゆっくり昼休みに図書館で過ごす時間、本に触れる機会がだんだん減ってきていると思う。</p> <p>中学校だと、カリキュラムがきつくて授業で図書館の本を使って調べ物をする時間も十分とれていない。これは学校として取り組んでいくべきだが、公共図書館に足を運んだ経験がある子供は減ってくるのではないかと思う。</p> <p>総合図書館は福岡市が誇る一番蔵書を持ってる図書館であり、そういうところに子供が魅力を感じて足を運ぶような、そういう機会を大人は作っていかなくてはいけないと思う。</p> <p>私が提案したいのは、13ページに市民との共働とか図書館ボランティアがあるが、今後は図書館が好きな子供とか、図書館に携わる子供とかの人材育成を図っていくことも大事だと思う。</p> <p>例えば選書をやってもらおうとか、広報誌の中に子供が登場するようなことを考えて、そういうことをやりたい子供を募集するような取り組みをすれば、図書館とか読書ということに関して課題意識を持ち、そういうのが好きな子供が育っていくと思う。</p> <p>今は教科書にデジタル技術が導入され、動画を見れるようなものが入ってきて、教科書をじっくり読ませる時間も確保できない状況で、本を読まない子供が増えていくのではとってる。義務教育であるから、子供が教科書の本を読んで理解できるようにすることが基本だと思うが、それには授業だけではなくて、本を読む機会などいろんな機会を通じてやっていかないといけないので、人材育成と子供を図書館に呼び込むような仕掛けづくりが将来的に必要ななってきたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>6ページの小学生読書リーダー養成講座についてだが、子供たちのどのような講座をどのように広めていこうとしているのか、素晴らしい講座と思うので実際どのくらい実施しているのか。</p> <p>また、1ページの電子図書館では学校との連携について検討を行うと記載があるにも関わらず財政面は減少しているところに矛盾を感じる。</p> <p>どのような手法で学校と連携し、広めようとしているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず1点目だが、小学生読書リーダーの育成については、今、各小学校の方で実施をしていただいている。</p> <p>昨年、令和3年度は37の学校で509名の子供たちに実施をしてもらったところ。</p>

	<p>今年度は、さらに増えて、12月末現在で45校1,192名である。</p> <p>まだ45校ということで、さらに広げる余地があるとする。</p> <p>電子図書館の令和5年度予算については、システム運用経費を圧縮できた分の予算が減額となっている。購入予算については518万4千円であり、これは昨年度と変わらず確保している。</p> <p>ただ、これで十分かと問われれば、まだ不足かもしれない。</p> <p>提供されてるコンテンツも、まだ十分とはいえないところもあり、総合図書館としてどのような本を選書していくかを見極めながら、学校担当と協議しながら連携については検討を進めていきたい。</p>
--	---

### 3. 報告事項

委員	<p>&lt;報告1 令和5年度予算及び機構について&gt;</p> <p>文学・映像課の再編ということで、映像資料係が文化資料活用係と変更されているが、これは映像だけではなく、文学文書関係も扱うということか。</p>
事務局	<p>映像資料係を文化資料活用係として再編し、この係に従前の映像資料業務に加え、文学文書係から文学業務を移管する。デジタル化対応推進や、映画・文学等文化コンテンツに触れることを目的とした来街者の促進など、国や市の施策との密接な連携を図る趣旨である。国等の機関による共同事業や助成事業により、外部の人的資源や施策を活用し、事業の推進を図っていきたいと考えている。</p>

### 4. 閉会

会長挨拶／館長挨拶／事務連絡